

お母ちゃんがかわいそうになった

会場で暗唱している時、女生徒のグループの方をわざと肝試しに見つめて、暗唱した。

その女生徒の中に、一際目立って、ひとり、きれいな女の子がいて、その子にじっと目をすえて、暗唱した。

晩秋、朝、通学電車で、僕の方をじろじろ見る女の子がいたが、まだ僕が眼帯をしていた頃だったが、その事を思い出した。

その子が、あの八幡の女の子だったとはっと、気が付き、僕は驚いた。

テープを聞いているうちに、「やはり、このスピーチができる様になっただけでも、よかったなあ。」と感じ、再び、何も見ないで、空で録音した。しかし、秋に録音したスピーチの方が感じが出ているように思った。

下に降りたら、家の生活費、お金の事で、母と父が口論。家にお金を入れられない父に、母はイライラをぶつけていた。僕はそれに巻き込まれ、愚痴を言っても仕方がないと、母に言ったが駄目だった。それが終わったのは十一時半頃だった。

家の経済状態の悪化や、あの子への片思い等で、僕の気持ちは重い。